

これからのクラウド提案に必要な顧客のビジネスと技術を見極める力

多様なサービスや実装可能な技術が次々に登場する中、クラウドをいかに効果的に利用するかは、企業ITにおける重要な課題となる。伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、単にクラウドサービスを提供するだけでなく、関連技術の開発や提案活動を通じて、それを支援。「クラウドネイティブ」な環境の最適なインフラマネジメントを実現する技術を広く提供するなどして、クラウドによる顧客のイノベーション創出に貢献している。

システムの稼働状況に応じてITリソースを自動制御

——クラウドへの取り組みをますます強化しているそうですね。

大久保 単にCTCが提供するクラウドサービスの販売を促進してだけでなく、CTC自身がクラウドの持つ本当の価値を改めて理解し、そのポテンシャルを最大化するための技術やソリューションの開発、さらには最適な使い方の提案までを行いたいと考えています。

というのも、現在、クラウドに実装できる技術は膨大な数に上ります。お客様が、それらをすべて把握し、選択しながらビジネスに取り入れていくのは非常に困難です。ですから、なぜこういう

技術が登場し、どんな特徴を持っているのか、さらには、それをどう生かすべきかということを的確に提案したり、情報を提供したりしていくことは、我々の重要なミッションの一つなのです。

——具体的には、どのような取り組みを推進しているのでしょうか。

大久保 例えば、クラウドにおけるリソースマネジメントに最適解を示したいと考えています。

今後、多くのシステムが、クラウド上で稼働することを前提として開発されるようになるでしょう。リソースのサイジングなどは柔軟に行えるようになりますが、リソースマネジメントは物理環境に比べて、複雑化します。

それに対し、CTCが開発したのが、クラウドOSであるOpenStack上のリソースを最大限に活用できるOSS、

「Real Application Centric Kernel (RACK)」です。

このRACKで実現される、真の「クラウドネイティブ・アプリケーション」は、自ら必要とするリソースをダイナミックかつ自動的にアサイン、アロケートします。これにより、データ処理件数や処理の種別など、刻々と変化するアプリケーションの稼働状況に応じてリソースを自動的に制御。まさに、「クラウドネイティブ」な環境に必要な不可欠な技術だと自負しています。

しかも、クラウドネイティブ・アプリケーションに関する開発成果はオープンソースとして公開しており、多くのクラウド事業者様、一般企業のお客様の効果的なクラウド活用に役立てていただきたいと考えています。

高速開発を実現する環境整備に積極的に投資

——リソースマネジメントのほかに、どのような領域に注目していますか。

大久保 クラウドの持つスピードを生かしたシステム開発です。

近年、アジャイル開発が注目されているように、ITには、さらなるスピードが求められるようになってきました。今日のビジネス環境では、数年、数カ月先を予測してシステムを開発しても、その間に刻々と市場は変化してしまうからです。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
取締役 兼 常務執行役員
ITサービス事業グループ担当役員
兼 CTO

大久保 忠崇氏

クラウドは、高速開発を追求する上で欠かせないインフラですが、アプリケーション部分に関しては、オープンソースをはじめとする既存のプログラムを理解し、使いこなすための技術など、様々なノウハウが求められます。

我々は、これらを体系化し、今、必要なシステムを、すぐに開発して、すぐにサービスインできるような環境を実現していきたい。そのための研究・開発に積極的に投資していく考えです。

——実際には、どのような体制で研究・開発を進めるのでしょうか。

大久保 まず、積極的に取り組んでいるのが技術者の育成です。OpenStackなど、次世代のクラウド技術の勉強会やトレーニングコースを開設し、すでに参加しているエンジニアは300名に達しています。

また、2015年4月からクラウドに関する次世代アプリケーションおよびプラットフォームの研究・開発を専業とする「Cloud Innovation Center (クラウド・イノベーション・センター)」という組織を新たに立ち上げます。

ここで、ハイブリッドクラウド、複数プログラミング言語を使用したアジャイル開発などを軸に、変化に強いIT



「どの技術を選び、どう活用するか——。それを提案していくのが我々の使命」

システムを研究します。現在は、約50名のエンジニアが中核となり活動していますが、ここでもアプリケーション開発技術とインフラ技術を併せ持つエンジニアの育成に注力します。

多様化する選択肢の中から最適な提案を見極める

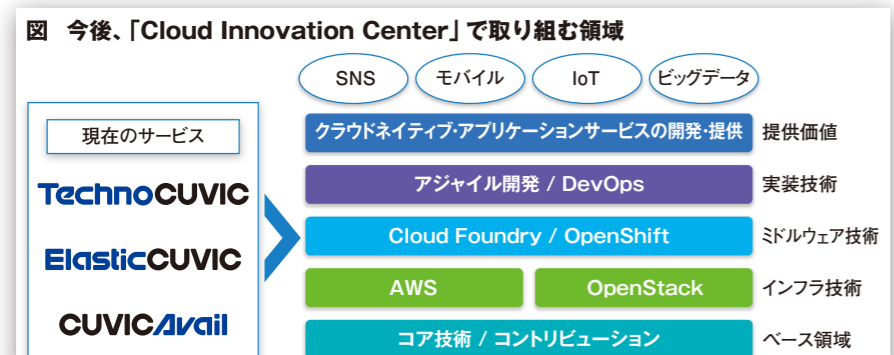
——先期的確な提案、情報提供も重要な使命と聞きましたが、どのような方針で活動を行うのでしょうか。

大久保 「今、どんなシステムが必要か」を最も理解しているのは、当然、お客様自身です。しかし、「現在、どんな技術が登場しているか」あるいは「今後、技術がどう変化していくか」については、私たちの方が詳しい。クラウドに関しては、私たちが詳しい。クラウドに関しても、今後も永遠に同じ技術を採用

した環境であり続けることはありません。特定分野に特化したクラウドなど、様々なサービスもどんどん登場するでしょう。

ですから、前述したとおり、お客様の声にしっかりと耳を傾け、それを咀嚼し、多様化する選択肢の中で、どの特徴を持つサービスを、どう活用するのが最適なのか。しっかりと見極めて、お客様に提案していきたいと考えています。

IoT (Internet of Things)、モバイル、ビッグデータ、ソーシャルなどの活用分野の拡大に伴い、お客様の環境は日々変化しています。お客様の声に応えるためにクラウドによるイノベーションを追求するだけでなく、お客様と一緒にイノベーションを創出していきたいですね。 **Ad**



OpenStackなどのインフラ技術や、アジャイル/DevOpsといった実装技術など、トータルな領域でクラウドネイティブな環境の実現に向けた活動を展開する

お問い合わせ先



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
〒100-6080 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル
ITサービス事業グループ
E-mail: cuvic-info@ctc-g.co.jp URL: www.ctc-g.co.jp